

2019年度
港北区災害ボランティア連絡会
総会資料

- | | |
|-----------|-------------|
| 1. 2018年度 | 事業報告 |
| 2. 2018年度 | 決算報告 及び監査報告 |
| 3. 2019年度 | 事業計画 (案) |
| 4. 2019年度 | 予算 (案) |



2019年5月15日 (水)

10:00~12:00

於 港北区福祉保健活動拠点

2019年度 役員

| 役 職 | 役 員 名 | |
|-----|--------|--------|
| 会 長 | 宇田川 規夫 | |
| 副会長 | 村野 明美 | 高根澤 恵子 |
| 会 計 | 付岡 博子 | 小澤 美津子 |
| 書 記 | 中島 一郎 | 山口 麻津子 |
| 監 査 | 山中 奈子 | 田北 孝紀 |
| 広 報 | 山本 正史 | ————— |

【災害ボランティア連絡会 担当】

| | | |
|----------|----------------------|-------|
| 社協 | 石河 沙也佳 | 田中 元子 |
| 区ボランティア班 | 濱島 亮平（子ども支援課子ども家庭係長） | |

2018年度 振り返り

豪雨被害、地震、台風そして猛暑、逆走台風と昨年も様々な災害が日本列島を襲いました。特に西日本豪雨では最大18府県58市町でボランティアセンターが開設され、東日本大震災以来の同時ボランティアセンター設置となりました。その結果、ボランティアコーディネーターやボランティアが足りないと言う悲鳴が各地から寄せられました。このような事態は膨大な人口を要する横浜で大きな災害が起きた時にも起こることを覚悟しなければいけません。

●やったこと、できたこと

1 会員がつながり、楽しく学ぶ災ボラ、役にたつ災ボラ

今年度も「我が家の防災」シリーズには関心が高かったようです。そこからは多様な減災対策が見えてきました。そこには地域に減災活動を広めるためのヒントも隠されており、お茶の間防災へつなげるきっかけが見えてきたと思います。しかし一方ではその対策を進める難しさも見えました。常総水害の際のDVD視聴はボラセン活動が具体的に分かると好評でした。また「クロスロード」の体験や「東京防災」の読み合わせも好評でした。一人では難しい体験が定例会で取り上げられたことで、皆で楽しく学びあうことが出来ました。

ニュースは75号(3月段階)となりました。情報共有手段のサイボーズライブはサークルスクエアへの移行を終え、従来の連絡中心から、アンケート機能などを使って会員の意見集約の手段としても機能し始めています。

2 地域とつながり、命を守る知恵を出す災ボラ

ボランティアセンター開設運営訓練では、区と師岡地区の方々のご協力もあり多数の参加を頂き、従来にない実践的なプログラムを組むことが出来ました。区、社協、連絡会会長をつなぐ無線機も配備され、災害時の緊急連絡手段も確保することが出来ました。

生き延びるための災害時の食事の工夫では、仲手原自治会の協力を得て仲手原自治会館をお借りしての活動が出来ました。地域防災拠点での訓練を通じて篠原地区自治会との共同行動を深めることが出来ました。今後その活動をどう各地域に広げられるかを考える必要があります

3 汗をかき、被災地とつながる中から学ぶ活動

区内のイベントでは、被災地の作業所製品の販売を通して東北や熊本の被災地とつながり続けました。また会の認知度を上げるのにも役立ちました。西日本豪雨での掃除用タオルを集めた際は、日吉町会も呼びかけに賛同してくれたおかげで多数集まり被災地からも喜ばれました。一方発送体制や発送のタイミング、タオルや雑巾だけでなくより役立つ支援は無いかと考えさせられました。西日本豪雨災害ではボーイスカウトの協力を得て215,240円の金額が集まり、全額を日本赤十字社へ送りました。タオル収集の際にもタオルの送料やレスキユストックヤードへの募金が151,379円集まりました。

課 題

昨年は1団体・1個人の新たな加入がありました。しかし、年度後半になると定例会参加者が少なくなる傾向は今年もありました。タスク活動や販売活動でも一部の会員に負担がかかる傾向があります。

定例会ではグループに分かれ話し合う形をとることでいろいろな意見を集めることができるようになりましたが、定例会に参加できない会員の意見もぜひ聞きたいところです。そのためにはサークルスクエアの有効活用が大切です。

またここ数年「つながりは備え」を合言葉にして活動していますが、もっと区内外諸団体との関係を作り、深める事は大切な課題です。インプット無くしてアウトプット無しです。

2018年度 活動報告

【シミュレーション・ハンドブックタスク】

災害ボランティアセンター運営シミュレーション

- (1) 日時 : 2018年12月08日(土) 9:00~12:30
- (2) 会場 : 港北区福祉保健活動拠点多目的研修室 ・ 区役所検診室
- (3) 参加者 : 66名 手話通訳者2名
障がい当事者 6人 障がい者家族 4人 障がい者支援者 5人
拠点委員 9人 災ボラ会員 17人 一般 10人 社協 7人 区役所 8人
- (4) 訓練目的 :
- ・災害ボランティア連絡会員のコーディネーター能力の向上
 - ・災害ボランティアセンター立ち上げの手順を区、社協、連絡会で確認
 - ・障がいのある人が避難所で暮らす場合の困りごとを聞く
 - ・避難所運営委員の皆さんと障がいのある人のスムーズな受け入れについて考える
- (7) 訓練内容 :
- ・区役所・社協・災ボラで、無線を使用してボランティアセンター立ち上げ訓練
 - ・参加者受付時にボランティア登録・受付訓練
 - ・マッチング・送り出し訓練
 - ・障がいのある方より災害時の困りごとを話していただいた
 - ・グループに分かれて災害時に障がいのある方の「困難」について話し合う
- (8) 振り返り :
- ・障がいのある方と拠点委員に話し合っただくという目的は達成できた
 - ・様々な立場の方々に参加していただけてよかった
 - ・マッチング・送り出しの訓練では、一般の参加者のためにより細かい設定が必要であると感じた
 - ・グループワークでは、様々な立場の方々の間で活発な話し合いができた
 - ・災害ボランティアセンターについて知っていただく工夫がもっと必要
 - ・区役所・社協との連絡をさらに密にしていきたい

【イベントタスク】

セミナーの開催

- (1) 日 時 : 2019年2月17日(日) 10:00~13:15
- (2) 会 場 : 仲手原自治会館
- (3) 参加者 : 総参加人数 36名
参加拠点 港北小学校、篠原小学校、篠原西小学校
参加地域 仲手原・仲手原南・篠原東・富士塚・菊名南・篠原西・篠原
その他 篠原地域ケアプラザ・家庭防災員、講師、災ボラ
- (4) 目 的 :
 - ・災害時の基礎力を作る一環として炊事力を考える
 - ・拠点との関係づくりとして、今年は篠原地区3拠点との連携強化を図る
- (5) 内 容 :
 - ・屋外での効率の良いコンロの使い方などの説明
 - ・災害時にも美味しいものを!
 - ・カセットコンロを使ってパッククッキング実習
 - ・ロケットストーブを使用して炊飯
- (6) 講 師 : 小松尚子(フォーラム・アソシエ)
- (7) 参考資料: 「おいしい炊き出しレシピブック 新しい減災・防災のかたち。」
- (8) 振り返り:
 - ・さまざまな地域の方の参加が多く、篠原地区3拠点との関係づくりの起点となった。
 - ・今後港北区内の拠点との関係づくりに利用できるテーマと思われる。
 - ・「食は人の心をつなぎ、心を癒すもの」参加者へ十分伝わったと
 - ・災害食は以前から興味のある方が多く
「災害の時に、日常と変わらない食事に近いものが作れ、食べることができるといことは、災害を乗り越えるための生きるパワーになる」などのアンケート回答が多数あった
 - ・さまざまなコンロの種類があり、用途にあったものを選択する必要がある
 - ・ロケットストーブの有効性を確認できた
 - ・牛乳パックを火付材として使うなど利用価値もわかった
 - ・定例会を利用したパッククッキングの事前実習は有意義だった
 - ・パッククッキングの実習に男性が積極的に参加してくれたことは嬉しい驚きだった

【PR タスク】

1 : 連絡会ニュース *毎月発行2019年4月で75号

(1) 内容 : 定例会報告、連絡会イベント、地域の諸団体の防災への取り組み紹介、国内の防災の動き、防災グッズ紹介、など

(2) 配布先 :

〈地域関係〉 仲手原自治会、富士塚自治会、篠原地区民生委員、大倉山連合町内会、地域防災拠点 (太尾小、高田東小、北綱小)

〈ボランティア団体・企業〉 富士塚ボランティアグループ、篠原地区ボランティア連絡会、手話サークルあじさいの会、港北区地域子育て支援拠点どろっふ、びーのびーの菊名広場、ボーイスカウト横浜第8団HP、WEショップ、かれん、大倉山おへそ、街カフェ、横浜北部失語症友の会、精神保健福祉グループ「あみねっと」、福祉パル生協

〈公的団体・施設〉 港北消防署・庶務係、消防団、神奈川新聞、地域ケアプラザ9か所、地区センター6か所、港北区役所区民活動支援センター、横浜ラポール、港北国際交流ラウンジ、かながわ県民活動サポートセンター、鶴見川流域センター、港北土木事務所・

水道局菊名事業所、神奈川県港北警察署、横浜北 YMCA、特別養護老人ホームワゲン新横浜、新横浜地域活動ホーム、横浜農協港北支店

〈その他〉 記事に掲載された方・団体 など

【配布方法】 市ネット・各区社協・災害ボランティア団体経由、連絡会参加者を通じて手渡しやメール配信、連絡会HP掲載、郵送 等

【年間発行部数】 約10,000部

2 : HP・グループウェア・FBでの情報共有

- ・グループウェアの現在の登録者数 : 26名
- ・共有内容 : 全国の被災地情報、ボランティア募集の呼びかけ、連絡会・市ネット・他の団体の研修会イベントのお知らせ
- ・サイボウズからサークルスクエアに移行イベントの募集や出欠にも利用

【その他】

1：横浜災害ボランティアネットワーク会議での活動

(1) 総会

日時・会場：2018年6月7日(金)横浜市健康福祉総合センター

【第1部・研修会】

内容：「横浜市防災計画『震災対策編』修正について」

【第2部・総会】

1) 2017年度事業報告・決算報告について

2) 2018年度事業計画(案)、事業予算(案)について

(2) 市災ネット運営委員会参加

毎月開催

(3) 災害ボランティアコーディネータースキルアップ研修

日時・会場：2019年1月23日(水)横浜市健康福祉総合センター

内容：西日本豪雨災害に学ぶ「災害時のネットワーク連携について」

講師：石原達也氏(NPO法人岡山NPOセンター)

(4) 市・区災害ボランティアセンター運営訓練

日時・会場：2019年3月9日(土)横浜市健康福祉総合センター

内容：西日本豪雨災害での運営支援報告から「運営対応の課題」を考える

ゲストスピーカー：小林深吾氏(一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター)

(5) Dブロック会議

2018年7月25日、2019年1月29日

2：地域・他ネットとの協働

(1) 各種イベントへの参加

目的と手段：広報活動として連絡会ニュース・リーフレット・連絡会イベントのチラシ配布、災ボラパネル展示、支援物資販売

- ・4月22日 ボーイスカウト8団バザー(白幡小)
- ・5月21日 らくらく市(菊名地区センター広場)
- ・6月9日 港北小拠点訓練参加
- ・7月22日 西日本豪雨災害募金活動(新横浜駅街頭) ボーイスカウトと協賛
- ・7月31日 西日本豪雨災害 タオル募集・募金活動
- ・9月23日 鶴見川流域センター防災アクション 防災テント・ロープワーク・広報活動
- ・10月13日 さんま祭手伝い(仲手原自治会館)
- ・10月14日 ミニらくらく市(菊名地区センター広場)
- ・10月20日 港北ふれあい祭り(新横浜運動公園)
- ・10月21日 仲手原小防災訓練参加 ニュース配布・広報活動
- ・11月2日 ほくほくフェスタ(港北区役所前ピロティー・港北公会堂)
- ・11月9～11日 新田地区センター文化祭(9日は搬入のみ)

- ・12月13日 港北小にて防災学習講座 小学生として「無理なくできる防災」「災害対策」一番大切なものは「命」であることなど (拠点訓練の連携から会員に依頼)

(2) その他

- ・外部のセミナーや研修会に積極的に参加 (参加費を助成)
6/12・13「災害時の連携を考える」全国フォーラム (JVOAD)
- ・被災地支援を行った : タオル募集、募金活動 ¥136,014 RSY を経由で募金、¥15,365 (タオル送料)

3 : 災害手話

例年と同じように港北区聴覚障害者協会と手話サークルの協力で災害手話を定例会の時間の中で学んだ。(7/18.10/17.1/16) 手話を学ぶ事で、他の障害の方への理解にもつながると思いました。今後、少しでも皆さんが手話に係る時間を増やすことを目指します

4 : ボーイスカウトとの協働によるAED調査の実施

29年度に行った街歩き・AED 調査結果を地図をパウチして掲示できるものを地域・自治会へ提供

5 : 備品の新規購入

テント1、パネル3、パネルスタンド3、ビブス30、吊る下げ名札500、住宅地図

2018年度 港北区災害ボランティア連絡会 決算書

(単位:円)

2019. 3. 31現在

| | 科 目 | 決算額 | 予算額 | 差 額 (決算-予算) | 説 明 |
|--------------|----------------|----------------|-----------------|----------------------|--|
| 収 入 | 会費 | 68,500 | 66,000 | 2,500 | 登録37 22団体 個人15 @500×117D @5,0002D (備A) |
| | 参加費 | 0 | 48,000 | △ 48,000 | |
| | セミナー | 0 | 8,000 | △ 8,000 | |
| | シミュレーション | 0 | 0 | 0 | |
| | その他の活動 | 0 | 40,000 | △ 40,000 | |
| | 区補助金 | 170,000 | 170,000 | 0 | |
| | 社協補助金 | 0 | 74,000 | △ 74,000 | |
| | 物販売上金 | 303,380 | 250,000 | 53,380 | 物販売上 |
| | 雑収入 | 2,001 | 0 | 2,001 | 寄付(田北様)、利息1 |
| | 前年度繰越金 | 145,198 | 145,198 | 0 | 区余剰返戻金22,751金 |
| 収入合計額 | 689,079 | 753,198 | △ 64,119 | | |
| 支 出 | 事 務 費 | 356,132 | 420,080 | △ 63,948 | |
| | 通信費 | 4,100 | 50,000 | △ 45,900 | 通知文・ニュース・イベント案内送料 切手代金 等(社協実費補助有) |
| | 消耗品 | 10,962 | 50,000 | △ 39,038 | 事務用品、文具、コピー紙 等 (社協実費補助有) |
| | 会議費 | 2,478 | 20,000 | △ 17,522 | コピー代金・リゾー分(ニュース、資料など) (社協実費補助有) |
| | 交通費 | 16,000 | 20,000 | △ 4,000 | 役員会交通費 1年分 @2,000×8 |
| | 活動保険 | 16,500 | 15,000 | 1,500 | @500×3=1,500(30年度分) @500×30 (31年度分) |
| | 分担金 | 15,000 | 15,080 | △ 80 | 横浜災害ボランティアネットワーク年会費5,000、RSY登録年会費10,000 |
| | 物販仕入代金 | 257,223 | 210,000 | 47,223 | 販込手数料・送料含む |
| | 支援ボランティア活動 | 33,869 | 40,000 | △ 6,131 | 物販費材5,282 セミナー費材 13,169 書籍 7,020、打合せ・反省会 3,698 等 |
| | 事 業 費 | 232,737 | 250,000 | △ 17,263 | |
| | セミナー | 29,193 | 40,000 | △ 10,807 | 講師謝金、行事保険、送料・印刷費、コピー紙、会議費、筆手 等 |
| | シミュレーション | 10,836 | 15,000 | △ 4,164 | 印刷費(資料)、コピー紙 等 |
| | ハンドブック | 0 | 5,000 | △ 5,000 | |
| | 広報費 | 25,449 | 40,000 | △ 14,551 | AEDマップ作製費、拠点訓練用資料印刷費、書籍@756×13 |
| | 手話通訳費 | 19,968 | 70,000 | △ 50,032 | 手話通訳謝金(シミュレーション) |
| | 活動費 | 34,333 | 30,000 | 4,333 | ネットワーク関連交通費、無線利用料金、資料印刷費、イベント参加費 等 |
| | 備品購入費 | 100,688 | 30,000 | 70,688 | テント1、パネルスタンド3脚、パネル3枚、ピプス30、吊下げ器500、住所地図 等 |
| ホームページ | 12,270 | 20,000 | △ 7,730 | 利用料12,270 | |
| 予 備 費 | 26,451 | 83,118 | △ 56,667 | 区余剰返戻金22,751、花束3,700 | |
| 次年度繰越金 | 73,759 | | | | |
| 合計額 | 689,079 | 753,198 | △ 64,119 | | |

2019年 3月 31日

港北区災害ボランティア連絡会

監査  山本 孝子  田北 孝紀

港北区災害ボランティア連絡会

会長  宇田川 琢

港北区災害ボランティア連絡会

会計  竹内 博子  小澤 孝子

港北区災害ボランティア連絡会


会 計 監 査 報 告 書

平成30年度（平成30年4月1日～平成31年3月31日）
港北区災害ボランティア連絡会会計について、諸帳簿、収支決算書、
預金通帳及び関係書類に基づき監査した結果、その内容が適正かつ
正確であることを証明し、ここにご報告いたします。

平成31年4月 2 日

港北区災害ボランティア連絡会

会計監査 山中 奈子 

会計監査 田北 寿紀 

2018年度 参加会員一覧

【登録団体】20団体

| | 団体名 | 連絡員 | |
|----|-------------------------|-------|------|
| | | | |
| 1 | 横浜北YMCA | 山中奈子 | 田北孝紀 |
| 2 | 港北区ボランティア連絡会 | 村野明美 | |
| 3 | 手話サークルあじさいの会 | 坂上茂子 | |
| 4 | 港北手話サークル梅の会 | 半田美香 | |
| 5 | 富士塚ボランティアグループ | 小澤美津子 | |
| 6 | 仲手原マザークラブ | 井上禮子 | |
| 7 | 公益社団法人ガールスカウト神奈川県連盟第21団 | 小原信子 | |
| 8 | 国際救急法研究所 | 宇田川規夫 | |
| 9 | 日本ボーイスカウト横浜第8団 | 中島一郎 | |
| 10 | 港北区地域作業所連絡会 | 水越弘子 | |
| 11 | 港北区地域子育て支援拠点 どろっぶ | 原美紀 | |
| 12 | 横浜北部失語症友の会 | 室伏俊明 | |
| 13 | 港北区聴覚障害者協会 | 近藤寿一郎 | |
| 14 | NPO法人 街カフェ大倉山ミエル | 鈴木智香子 | |
| 15 | 社会福祉法人 かれん | 松園典子 | |
| 16 | NPO法人 ひーのびーの | 山口麻津子 | |
| 17 | ガールスカウト神奈川県第42団 | 秋山 治美 | |
| 18 | NPO法人WE21ジャパンこうほく | 砂田 正子 | |
| 19 | 日本ボーイスカウト神奈川連盟横浜地区第82団 | 小山貴司 | |
| 20 | NPO法人フォーラム・アソシエ | 一政 伸子 | |

【個人登録】13名

| | |
|----|-------|
| 1 | 寺内章一郎 |
| 2 | 白井保 |
| 3 | 付岡博子 |
| 4 | 室伏俊明 |
| 5 | 中谷健一 |
| 6 | 山本正史 |
| 7 | 中野保子 |
| 8 | 中島美奈子 |
| 9 | 古川卓二 |
| 10 | 杉浦明子 |
| 11 | 岩撫義之 |
| 12 | 佐藤米子 |
| 13 | 占部京子 |

【賛助会員】2団体

| |
|--------------|
| 港北国際交流ラウンジ |
| 社会福祉法人陽だまりの会 |

2019年度活動方針（案）

2018年に多発した災害は改めて減災活動の大切さを認識させられ直しました。災害時には多くの支援者=ボランティアが必要ですが、その中心には地元の間がいないでは円滑な活動はできません。ですから私たちが被災者にならない備えは絶対に必要です。それがあって初めて支援者になれるからです。減災の重要性を地域にも訴えることは欠かせません。そのために今年度も次の4つをテーマに活動を展開していきましょう。

◎賢い被災者となる知恵や体験を共有しよう

防災拠点の訓練は災害時に様々に提供される公的支援や民間の支援をどううまく受け入れるかの「受援力」が大切になります。それらをうまく受け入れ、被災住民も主体的に復興へ関わる力を出し合うことが大切です。

◎死なない、傷つかない防災を目指そう

誰しもが失いたくない命を持っています。それは自分の命だけではなく、自分の命以上に大切なものであるかもしれません。現在の減災対策がその大切な命を本当に守れるのか、今一度真剣に見つめてみようではありませんか。それが被災を経験した方が口々におっしゃる「他の人たちにはこんな辛い経験はさせたくない」という思いからの「被災地責任」という重い言葉に応えることだと思います。

防災を自分事にするための知恵を出し合い、点検しあい、実行する連絡会にしましょう。

◎「つながりは備え」を実現しよう

減災活動を広めるためにも多くの知恵を集めるためにも、発災時に多くの力を集めるためにも、1番大切なのは様々なつながりです。「普段できない事は災害時にもできない」と言われる通り、つながりも一朝一夕にできるものではなく日常の積み重ねです。団体会員や地域で活動している会員が多い連絡会の強みを活かしましょう。それが「連絡会」の名前を現実化することにもなります。

◎多様な関わり方を考えよ

災害は私たちの生活全体を大きく変えてしまいます。災害大国日本に住んでいる私たちにとって逃げられない課題が防災です。しかし現実の生活の中でこの課題に取り組む対応に軽重があるのは仕方のないことです。だからこそ自分の感覚や生活実態に合った防災・減災の活動に取り組むヒントを出し合うことが、多くの区民に考えてもらうヒントにもつながります。

2019年度 活動の柱（案）

●多様なつながりをつくり、活かす災害ボランティア連絡会

1 会員がつながり、楽しく学ぶ災ボラ、役に立つ災ボラ

- ①メンバーの力を引き出す日常活動
- ②定例会を相互の学びと場とする活動
- ③楽しい防災を生み出す活動
- ④サークルスクエアを積極的に活用し、意見の交換を薦める活動

2 地域とつながり、命を守る知恵を出す災ボラ

- ①防災・減災を啓発する活動
- ②災害ボランティアセンター運営能力を高める活動
- ③町内会や地域防災拠点運営委員会と連携する活動

3 汗をかき、被災地とつながる中から学ぶ活動

- ① 区内外の行事に積極的に関わる活動
- ②区内外の団体と交流を持ち、つながる活動
- ③支援が必要な災害に対し積極的に関わる活動

2019年度 事業計画（案）

今までタスク中心で企画、運営してきましたが、企画立案や準備、実行等が一部会員に過重になる傾向が現れてきました。そこで今年度は役員会や定例会での討論をもとに、ワーキンググループで動くように改善し、会員全体で実行していく体制をとります。

1 災害ボランティアセンター運営訓練を行う

目標

- ①災害ボランティアセンター運営能力の向上を図る
- ②区、社協、地域防災拠点との協同体制を確認する。
- ③訓練結果をハンドブックに反映させ、実効性のあるハンドブックを作る。

2 区内外の団体とつながりを作る

目標

- ①災害時のボランティアセンター運営の力を強化する
- ②被災地からの学びを連絡会活動やボランティアセンター運営に生かす
- ③ニュースを発行し他団体とつながるツールとする。また災害や防災の情報を伝えて市民の減災活動を促す。

*今年度の主な活動

定例会では

- ・災害手話
- ・東京防災の読み合わせ
- ・DIG, HUG, クロスロードなどの防災ゲーム実施
- ・災害 DVD 視聴

イベントでは

- ・シミュレーション
- ・災害食試食会
- ・常総市復興を進めている JUNTOS のお手伝い
- ・区内外の研修参加（市ネット、Dブロックなど）
- ・物販活動
- ・広報活動

今年度活動を活性化させていくためのお願い

「ほう・れん・そう」を心がけよう

ボランティア団体は活動が強制されるものではありません。しかし会の目的に賛同し、参加しているわけですから、会を前に動かす力の発揮が求められます。その力の出し方は会員の状況によって様々ですが、次の点を積極的に実行するようにして、活性化を図っていきたいと思います。そのために、ほう＝報告、れん＝連絡、そう＝相談を積極的に行って行きましょう。

- 1、事業計画を意識した活動計画を検討する。
- 2、計画段階でその活動の目的を明確化し、実施後の点検と今後の発展に生かせるようにする。
- 3、会員はそれぞれが可能な形で計画に参画するよう心がける
- 4、そのため定例会や各種行事への出欠の返事をする、各種会議やネットを通じての意見表明をする、などで積極的に参画していく。

2019年度 港北区災害ボランティア連絡会 日程（案）

定例会開催予定時間 10:00～12:00

※今年度、夜間開催は中止

| 日 程 | 開催・場所 | 内容・備考 |
|------------------------|--------------------------|---|
| 4月 17日 (水) | 定例会 区社協多目的研修室 | 本年度計画・新規登録について 総会準備 |
| 4月 21日 (日) 9:00～ | 物販活動・広報活動 白幡小 | Boy8団バザー |
| 5月 15日 (水) | 総会 区社協多目的研修室 | 総会 2018年度事業報告・決算報告 2019年度事業計画(案) 予算(案) |
| 6月 1日 (土) 9:00～ | 物販活動・広報活動 新横浜運動公園 | 港北ふれあい祭 |
| 6月 19日 (水) | 定例会 区社協多目的研修室 | 年度事業の進め方について |
| 7月 17日 (水) | 定例会 区社協多目的研修室 | |
| 9月 12日 (木) | ボラ連共催 防災食セミナー 会場未定 | 出前講座 |
| 9月 18日 (水) | 定例会 区社協多目的研修室 | |
| 9月 23日祝 (月) | 広報活動 鶴見流域センター | チャレンジ防災アクション 出前講座 |
| 10月 16日 (水) | 定例会 区社協多目的研修室 | |
| 10月 21日 (日) | 物販活動・広報活動 菊名地区センター前広場 | ミニららく市 |
| 11月 1日 (金) | 物販活動・広報活動 港北公会堂 | ほくほくフェスタ |
| 11月9日(土) ～11月10日(日) | 物販活動・広報活動 新田地区センター | 新田地区センター文化祭 |
| 11月 20日 (水) | 定例会 区社協多目的研修室 | |
| 12月 1日 (日) | 会場未定 | シミュレーションorセミナー |
| 12月 18日 (水) | 定例会 会場未定 | |
| 1月 15日 (水) | 定例会 会場未定 | |
| 2月 9日 (日) | 会場未定 | シミュレーションorセミナー |
| 2月 19日 (水) | 定例会 会場未定 | |
| 3月 18日 (水) | 定例会 会場未定 | 総括 次年度の計画 |

※8月休会

※各拠点の防災訓練や地域のイベントにて物販・広報活動

※区社協(吉田ビル)耐震工事予定に伴い、12月以降の会場は未定

2019年度 港北区災害ボランティア連絡会 予算(案)

2019.

(単位:円)

| 科 目 | | 前年度予算 | 前年度決算 | 本年度予算 | 説 明 |
|--------|----------------|----------------|----------------|------------------|---|
| 収 入 | 会 費 | 66,000 | 68,500 | 68,500 | @500×117口(正会員) @5,000×2(賛A) |
| | 参 加 費 | 48,000 | 0 | 0 | |
| | セミナー | 8,000 | 0 | 0 | 参加費無料 |
| | シミュレーション | 0 | 0 | 0 | 参加費無料 |
| | その他活動 | 40,000 | 0 | 0 | 参加費無料 |
| | 区 補 助 金 | 170,000 | 170,000 | 170,000 | 事業費該当 |
| | 社 協 補 助 金 | 74,000 | 0 | | 今年度より現物で補助 |
| | 物販売上金 | 250,000 | 303,380 | 250,000 | 物販売上金 |
| | 雑 収 入 | 0 | 2,001 | 0 | 寄付、利息等 |
| | 前 年 度 繰 越 金 | 145,198 | 145,198 | 73,759 | |
| 合 計 額 | 753,198 | 689,079 | 562,259 | | |
| 支 出 | 事 務 費 | 420,080 | 356,132 | 322,000 | |
| | 通信費 | 50,000 | 4,100 | 15,000 | 通知文・ニュース・イベント案内送料 等 |
| | 消耗品費 | 50,000 | 10,962 | 10,000 | 文具、コピー紙 等 |
| | 会議費 | 20,000 | 2,478 | 10,000 | コピー・印刷代金(ニュース・イベントちらし・通知文・資料) 等 |
| | 交通費 | 20,000 | 16,000 | 16,000 | 役員会交通費 |
| | 活動保険 | 15,000 | 16,500 | 16,000 | 天災付ボランティア保険 @500×32 |
| | 分担金 | 15,080 | 15,000 | 15,000 | 横浜災害ボランティアネットワーク年会費 ネットワーク年会費 等 |
| | 物販仕入れ代金 | 210,000 | 257,223 | 210,000 | 物販仕入金(送料・振込料込) |
| | 支援ボランティア活動費 | 40,000 | 33,869 | 30,000 | 支援ボランティア資材・食料費、会議費(打合せ、反省会) 等 |
| | 事 業 費 | 250,000 | 232,737 | 230,000 | |
| | セミナー | 40,000 | 29,193 | 35,000 | 資料印刷費、行事保険、講師謝金、交通費、通信費 等 |
| | シミュレーション | 15,000 | 10,836 | 10,000 | 資料印刷費、行事保険、交通費、通信費 等 |
| | ハンドブック | 5,000 | 0 | 5,000 | ハンドブック改訂の研修費及び印刷費・コピー紙 |
| | 広報費 | 40,000 | 25,449 | 30,000 | 防災拠点・住民への広報活動のための資料づくり 等 |
| | 手話通訳費 | 70,000 | 19,968 | 60,000 | 手話通訳謝金(セミナー、シミュレーション) |
| | 活動費 | 30,000 | 34,333 | 35,000 | 災ボラ広報活動・市ネットワーク関連交通費、 イベント参加費、 名刺シート 等 |
| | 備品購入費 | 30,000 | 100,688 | 40,000 | パネル、吊り下げ名札 等 |
| ホームページ | 20,000 | 12,270 | 15,000 | 更新料、サーバーレンタル料金 等 | |
| 予備費 | 83,118 | 26,451 | 10,259 | | |
| 次年度繰越金 | | 73,759 | | | |
| 合 計 額 | 753,198 | 689,079 | 562,259 | | |

港北区災害ボランティア連絡会会則

第1章 総則

(名称)

第1条 この会は、港北区災害ボランティア連絡会という。

(目的)

第2条 この会は、災害時に支援活動を行なおうとする個人及び団体で構成する。平常時、分野を超えた幅広い交流等を通じ研鑽する中で災害に強いまちを目指した減災活動を推進する。そして災害時、港北区災害ボランティアセンターを開設・運営する。

(事業)

第3条 この会は、前条に掲げる目的のため、次の事業を行う。

- (1) 災害ボランティアコーディネーターの養成及び支援活動を行うための研修
- (2) 災害ボランティア関係機関や行政との交流と情報交換
- (3) 災害ボランティアの普及及び啓発
- (4) 災害ボランティアセンターの開設及び運営
- (5) そのほか、目的のために必要と認めた事業

第2章 会員

(会員)

第4条 この会の会員は、会の目的に賛同した団体及び個人とする。なお、会員は、次の2種とする。

正会員 本会の目的に賛同して入会した団体及び個人

賛助会員 本会の事業を賛助する団体及び個人

2 この会に入会を希望する者は、所定の入会申し込み手続きを経て、定例会で承認される。なお、退会を希望する者は別途に定める退会届を提出するものとする。

3 会員は、以下の年会費を納入しなければならない。又、年度の途中に入会する会員は、入会時に年会費を納入するものとする。

正会員 年額 1口 500円 (2口以上)

賛助会員 年額 A 5,000円 B 10,000円 C 30,000円

4 賛助会員は総会及び定例会に出席できる。ただし議決権は有しない。

第3章 運営

(役員)

第5条 この会に次の役員を置く。

- (1) 会長1名
- (2) 副会長1名以上2名以内
- (3) 会計1名以上2名以内
- (4) 書記1名以上2名以内
- (5) 広報1名以上2名以内
- (6) 監査2名

2 役員任期は2年とする。但し再任を妨げない。補欠により就任した役員任期は、前任者の残任期間とする。

(役員選任及び任務)

第6条 役員は総会において選任する。

2 会長は連絡会を代表し、その統括を行う。

- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときにはその職務を代行する。
- 4 会計は連絡会の会費を管理し、会計事務を担当する。
- 5 書記は連絡会の事務を司り、議事録を作成・保存する。(役員会議事録も作成)
- 6 広報は、区役所及び他の団体と情報交換をし、外部へ発信する。
- 7 会長は活動に伴う作業を行うため、必要に応じて作業部会を設置することができる。
- 8 監査は、この会の会計を監査する。

(総会)

第7条 総会は会員をもって構成し、年1回通常総会を開催する。ただし、必要があるときは臨時総会を開催するものとする

- 2 総会は、会長がこれを招集する。
- 3 総会の議長は、その総会において出席の会員の中から選任する。
- 4 総会は、会員総数の過半数の出席がなければ開催することができない。
- 5 前項の場合において、あらかじめ書面をもって付議される事項に意思を表した者は出席者とみなす。
- 6 総会の議事は出席会員の過半数で決定し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(定例会)

第8条 定例会は、会員をもって構成し、原則月1回定例会を開催する。

(事務局)

第9条 この会の運営事務を補助するため、社会福祉法人横浜市港北区社会福祉協議会に事務局を置く。

第4章 会計

(会計)

- 第10条 この会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。
- 2 会計は、年度終了後速やかに決算報告書を作成し、監査を受け、役員会の承認を経て、総会に報告しなければならない。

第5章 その他

(会則の変更)

第11条 この会の会則を変更しようとするときは、総会において会員総数の3分の2以上の同意を得なければならない。

(委任)

第12条 この会の会則に定めない事項は、会長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この会則は、平成10年11月26日から施行する。
- 2 この会則は、平成13年6月27日から施行する。
- 3 この会則は、平成15年11月17日から施行する。
- 4 この会則は、平成19年4月18日から施行する。
- 5 この会則は、平成20年4月16日から施行する。
- 6 この会則は、平成21年6月17日から施行する。
- 7 この会則は、平成23年10月19日から施行する。
- 8 この会則は、平成27年1月21日から施行する。
- 9 この会則は、平成30年5月16日から施行する。